

きれい 甲斐

No.57 MARCH 2012

環境パートナーシップやまなしは、県民・事業者・行政のパートナーシップ（協働）のもと、団体間の連携や情報交換の場づくりなどを通じて、自主的な環境保全活動を積極的に展開していくことを目的として様々な活動を行っています。
環境保全に関する活動を積極的に行っている団体、個人のみなさまのご入会をお待ちしています。

環境パートナーシップやまなし

事務局 ●〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1丁目6-1 山梨県環境創造課内
TEL.055-223-1503 FAX.055-223-1507 ✉ kankyo-sozo@pref.yamanashi.lg.jp
ホームページ [「パートナーシップやまなし」検索](#)



古紙配合率100%再生紙を使用しています

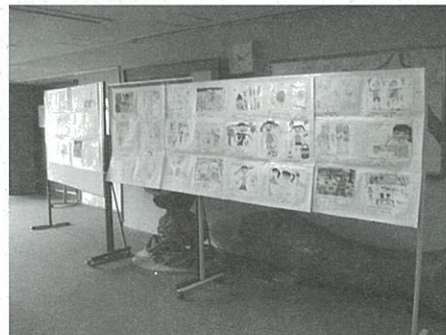
発行責任者 ● 広報専門部会長 神宮寺 聡

やまなし環境活動推進ネットワーク フォーラムを開催しました

環境パートナーシップやまなしでは、1月21日（土）に「やまなし環境活動推進ネットワークフォーラム」を公益財団法人やまなし環境財団との共催で開催しました。

当日は約150名もの方々に参加していただき、午後1時から4時まで環境保全に向けた取り組みについて活発な情報交換がなされました。

フォーラムの前半では、環境保全に向けた活動を実践している3団体から日頃の活動内容について発表していただきました。



中央市地球温暖化対策地域協議会の活動報告

最初に、「中央市地球温暖化対策地域協議会」からは「地域みんなで省エネ創エネにチャレンジ」と題して、市民・行政・企業・学校・NPO等有志が参加して地球温暖化防止活動を企画・推進・展開し、「地球温暖化防止を目的にした各種シンポジウムの開催」や「市民出資と補助金を活用した市民共同発電所の設置」、「市民祭りでの地球温暖化防止の啓発活動」、「広報誌活用による市民への節電・省エネ啓発活動」、「住宅用太陽光発電補助制度の推進・効果の確認」、「省エネナビの貸出と指導・効果の確認」、「各種教室や学習会の開催」などの省エネルギーの技術普及や新エネルギーの普及拡大に力を入れた様々な活動が紹介されました。今後も『太陽の力』『水のぬくもり』『緑の恵み』など、中央市の新エネルギービジョンの具現化のために頑張っていきたいとのことでした。



特定非営利活動法人 わくわくガイアの活動報告



続いて、“特定非営利活動法人わくわくガイア”からは、「元気に楽しく節電キャンペーン」と題して、節電アクションの取り組みにより、「会員の間で自分が行っている節電を発表しあい、お互いの知識を共有し、新たな節電を試みたこと」、「ワークショップで抽出した標語を車用のステッカーにして100部配布し、一般の方々にメッセージを普及できたこと」の2つの成果が生まれたことが発表されました。

また、「節電は苦行では続かない」や「本当に大切なことには電気を使おう」、「カッコいいメッセージが普及効果が高い」、「野外活動が節電と健康増進につながる」ことなどが提言され、今後も森林再利用と有機農業で心身を健康に保ち、寒さ・暑さに耐えられる体づくりを推進し、その過程で、里山でのゴミ不法投棄および休耕地再活性化の課題にも取り組んでいきたいとのことでした。

特定非営利活動法人 フィールド'21の活動報告

最後に、“特定非営利活動法人 フィールド'21”からは、「自然エネルギーの活用と温暖化防止」と題して、海外での小水力発電の先進事例や中国での温暖化対策について紹介がありました。また、山梨県の自然エネルギー活用事例について、「風：小型風力発電」「林：木質バイオマスや有機性廃棄物を利用した熱利用」「火：太陽光発電」「山：小水力発電や地中熱」などに分け、「薪作りワークショップ」や「太陽光パネル製作教室」などにより普及している、具体的な活動事例が発表されました。山梨県は、全国トップクラスの日照時間、急流の多い地形、県土の約8割を占める森林など、自然エネルギーの源となる優れた地域特性を有していることから、これらを生かした自然エネルギーの普及や導入を推進するため、今後も様々な支援を行っていききたいとのことでした。



ワークショップでの意見交換

フォーラムの後半では、公益財団法人やまなし環境財団の「エネルギー問題を考える～地域でできる節電アクション～」と環境パートナーシップやまなしの「私に取り組んでいる自然エネルギー活動」の2つのテーマに分かれて、全員参加型のワークショップを行いました。

環境パートナーシップやまなしの会場では、参加者からは、「集合住宅でペレットストーブを利用している方



の事例」や「バイオディーゼルネットワークを軌道に乗せるまでの取り組みの苦労話」、「市民共同太陽光発電所事業での地域通貨をどのように利用しているかの説明」、「木質バイオマスを利用した発電所建設の提案」、「子供達に新エネルギーについての環境教育を行っている事例」、「様々な自然エネルギーを利用した自家発電を行いながら自給自足生活をしている方からの『ない生活』を考える提案」など、様々な取り組みが発表されるとともに、東日本大震災後の環境活動をどう考えるかなどに意見が及び、活発な意見交換が行われました。

ネットワークフォーラムの最後は、2つのワークショップの結果発表がされ、公益財団法人やまなし環境財団の副理事長であり環境パートナーシップの企画委員である飯窪さかえ氏から講評をいただき、閉会となりました。



山梨市におけるごみ減量化の取り組みについて

山梨市では、限りある資源を大切に使う循環型社会の形成を目指し、指定ごみ袋の導入や、リサイクルステーションの設置を行ってきました。その結果、一時的に可燃ごみの排出量は減少し、6種類18品目の資源ごみがリサイクルステーションで回収されるようになるなど、一定の成果があげられました。しかし、近年可燃ごみの排出量は増加傾向にあり、資源ごみの回収量は伸び悩んでいます。



山梨市環境センターで行っている可燃ごみの組成分析の結果によると、山梨市から排出される可燃ごみの約7割は、紙類・生ごみで占められていることが分かっているため、ごみを減量化させるには、その他紙類の分別の徹底や生ごみの水きり・堆肥化の励行が必要であると考えられます。

そこで、山梨市では、市と市民（3モデル地区）が協働して効果的なごみ減量化の手法等を検討・検証し、その成果を全市的な取組へと発展させることを目的とした「山梨市ごみ減量化モデル事業」を実施しました。

市は、効果的なごみの減量手法を検討するため、モデル地区住民を対象として、①その他紙類の分別の徹底、②生ごみの水きり・堆肥化の励行、③リサイクルステーションの活用推進の視点で、ごみ減量講習会及び意見交換会を開催しました。その後、モデル地区では、「ごみ減量チャレンジ目標：一人1日当たりごみ排出量55g減」の達成を目指して、ごみの減量化に取り組み、市は、定期的にごみの排出状況をモデル地区に通知しました。

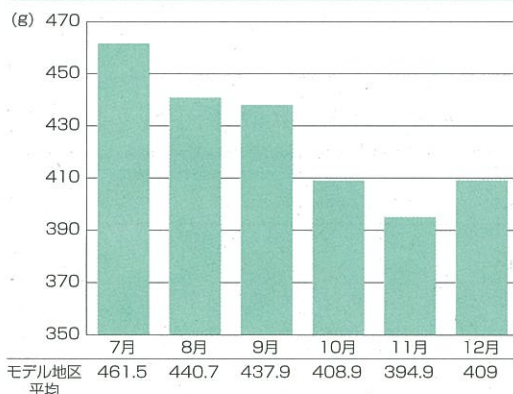


ごみ減量化に取り組んだ結果、モデル地区では、ごみの排出量が徐々に減少し、11月には、平均66.6gの可燃ごみの減量化に成功しました。

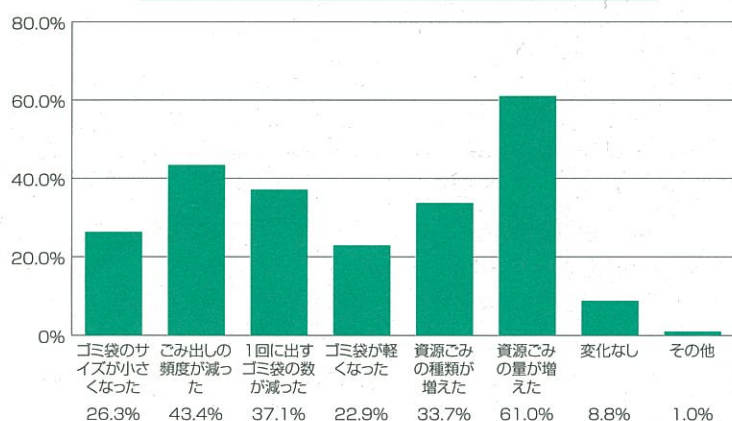
また、事業実施後のアンケートでは、約3割の住民が、使用するごみ袋のサイズが小さくなったと回答し、約4割の住民が、ごみを出す頻度や1回に出すごみ袋の数が減ったりしたと回答しました。

平成24年度からは、アンケート結果をもとに講習会の内容等を一部修正し、全市的な取組へと拡大させていきたいと考えています。

一人1日当たり可燃ごみ排出量の推移



ごみの出し方で変わったと思うことは？



環境保全活動に取り組む皆さんを応援します!

公益財団法人やまなし環境財団

平成23年4月1日から、やまなし環境財団は、公益財団法人に移行しました。

これからも、環境に関する普及啓発活動を行い、環境保全に向けた県民の意識の醸成を図るとともに、民間団体の環境保全活動を積極的に支援し、本県の環境保全活動の推進に資することを目的に、「助成事業」「表彰事業」「環境活動推進ネットワークフォーラムの開催」、「情報提供事業」、「温暖化防止対策支援事業」など皆様の環境活動を応援する事業を行っています。

詳しくは、山梨県環境創造課内にあります公益財団法人やまなし環境財団事務局
(TEL055-223-1503、メール kankyo-sozo@pref.yamanashi.lg.jp)
まで、お問い合わせください。

会員のレポート
Vol.18

「ハケ岳・清里の豊かな自然を舞台に、 自然と人、人と人をつなぎ、 環境教育に取り組んでいます」

財団法人キープ協会

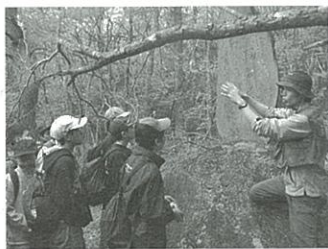
ハケ岳南麓の清里を本拠地とするキープ協会は、戦後の日本の農村復興のモデルを目指して、アメリカ人ポール・ラッシュによって1956年に設立されました。

設立当初に掲げた理念「信仰」「食糧」「保健」「青年への希望」に基づき、教会、高冷地実験農場、診療所、保育園、などを次々に建設しました。

今も創設者ポール・ラッシュの精神を引き継ぎ、様々な活動を展開していますが、近年は特に「国際交流」「環境教育」に力を注いでいます。1986年から取り組む「環境教育」は、約30年の歴史を持ち、国内外の環境教育を牽引してきました。

森に溪谷、そして草原と、豊かな自然環境を舞台に、専門の知識と経験を備えたインタプリター（自然案内人）が、自然体験型の環境教育プログラムを提供しています。

近年は「健康」「エネルギー」などをテーマにしたプログラムの開発、天然記念物ヤマネの研究・保全・教育活動、地域や企業・行政との協働、インタプリターの普及、環境教育ネットワークの支援など、幅広い活動を展開しています。



ホームページ

キープ協会

検索

<http://www.keep.or.jp/ja/>

●投稿募集中

【会員紹介コーナー】

①スペースはA5判程度で、原稿と写真等を入れて構成してください。②団体等の名称、所在地（事務局または事務所等）、連絡先を必ずお書きください。③内容は、活動紹介やPRなど自由です。④締め切りは特にありません。

【行事予定】

○団体名、日時、場所、内容、申込み方法、連絡先等です。